

寄 稿

高齢社会を豊かにするジェロンテクノロジーの創成

21世紀における世界の最重要課題は、人口の高齢化です。特に、わが国は世界で最も長寿化が進み、急速に超高齢化社会を迎えております。人口の高齢化は医療・介護・福祉領域にとどまらず、経済・産業・教育・文化・地域社会などの広い分野にわたり複雑な問題を提起しております。特に、医療・介護領域だけでも、高齢者に関わる診断技術や知識の向上、認知症など老年症候群予防の確立、在宅医療や地域介護力の飛躍的拡充、高齢者食生活の問題改善などがあります。



いまこそ、高齢者と高齢社会が抱える多くの問題を包含・熟慮して、超高齢社会へ向けて将来を予測し、計画し、設計し、発明すべきです。超高齢社会の広範な諸問題の解決には、医学・生理学・看護学・福祉学・社会学・経済学・法学・科学・工学・人文学などの広い諸科学の知見を統合しつつ、総合的な連携体制が求められます。このような高齢者や高齢社会の抱える諸問題を多角的にとらえ、統合的・総合的に研究する分野がジェロントロジーと呼ばれ、日本語では少々狭義の感がありますが「老年学」や「加齢学」とも呼ばれております。わが国では、ジェロントロジーに関する理解が余りありませんが、成熟した超高齢社会の実現へ向けてのジェロントロジーの役割は重大となっております。

今まで、ジェロントロジーは医療・介護領域や社会学などが中心となってきましたが、これからは高齢社会を豊かにする科学・技術・システムの創成、すなわちジェロンテクノロジーの創成により、健康で長寿で安心して暮らせる社会、いわゆる成熟社会の実現への貢献が期待されます。具体的な例としては、高齢者への医療・福祉技術（ロボット技術などを含む）の開発とそれらを利用するための高齢社会システムの構築などがあり、これらの発展は社会の経済発展と高齢者個人の生きがいへと連動することでしょう。ジェロンテクノロジーは高齢者と高齢社会における人間と機械の調和を基盤としており、その基盤関係を科学・技術を通して促進することが当財団の趣意となっております。従って、当財団の役割は将来へ向けてさらに重要性が増して行くことでしょう。

北海道大学 名誉教授・北海学園大学 名誉教授
NPO 法人北海道ジェロントロジー推進協会 理事長 朝 倉 利 光 (評議員)